

老年心理学研究室



総合学術研究科・人間学部心理学系

講師 志村 ゆず

(早稲田大学 博士(人間科学))

大学院担当科目:長寿科学特論

専門:老年心理学、回想法、認知行動療法

研究室:天白キャンパスタワー75 1202 号室

電話:代表 052-832-1151(内線 6722)

直通 052-838-2470

E-Mail: yuzu@ccmfs.meijo-u.ac.jp

当研究室では、老年学に関する諸問題についてと
りこんでいます。

研究課題1. 高齢者の学際的援助に関する研究

老年期のサクセスフルエイジングを目指すためにい
くつかの課題に取り組んでいる。特に、アセスメント方
法の開発と援助方法の効果研究、地域でのプログラ
ム導入効果など。キーワードは、プロダクティブエイ
ジングの課題として、高齢者、ストレスマネジメント、加
齢による認知的変化、回想法、ソーシャルサポートな
ど。精神保健的な問題としては、トラウマティックスト
レス、うつ、死別・悲嘆、自殺予防など。

研究課題2. 高齢者の回想法の研究

高齢者の回想法は、高齢者が過去を効果的に思い
出し、それに伴う情動を共有することにより、質の高い
コミュニケーションを行う援助方法である。回想法に関
する研究では、想起の手がかり(写真や映像)の開発
や聞き手の技法などによって回想法が効果をもたら
すと考えられる。また、高齢者の特性に応じた方法に
ついて課題がある。老年期の知的機能のアセスメン
ト、パーソナリティやアイデンティティ及び適応と想起と
の関連性についても検討している。さらには、コミュニ
ケーション効果をもたらす回想機能についての研究な

どである。

研究課題2. 援助職のストレスマネジメントの研究

バーンアウト(燃え尽き症候群)は、ヒューマンサー
ビス(人が人を相手にサービスを提供すること)が中
心となる現場、医療や福祉や教育の場では生じやす
い社会的な問題ともいえる。これらは、以下の5点に
まとめることができる。①消耗感、②人間性を欠くよ
うな感情や行動、③固執的な態度、④個人的達成感が
得られない態度、⑤問題行動や感情。これらを予防す
ることで、離職率の予防やヒューマンサービスの質の
高さを保持することができる。これらのリスクファク
ターの査定及びストレスマネジメントに関する研究など
をおこなっている。

研究課題4. 家族介護者のケアに関する研究

高齢社会では、家族介護者のストレスも深刻である。
ストレスコーピングでは、問題解決的コーピングと情
動焦点型のコーピングが重要であることが指摘されて
いるが、実際にどのように介護者
は援助スキルを向上させていくの
だろうか。家族介護者のストレスと
そのケアに関する研究に取り組ん
でいる。

